

コツコツと積み上げてきたものが無になるほどの大苦難。ピンチをチャンスに変えたのは、日常生活する事柄を前向きに受け止めてきた心の積み重ねでした。

北陸で手広く事業を展開していたO氏に、突然の苦難が襲いかかりました。工場で火災が発生したのです。約二十年間、汗と涙によって築き上げてきた財産は灰になつてしまいました。

火災事故の知らせを受け、以前から親しくしていた友人のNさんは、すぐさまO氏のもとに向かいました。途中「どんな慰めの言葉をかけようか……」と考えるのですが、なかなか言葉が浮かびません。足取りは重く、心は沈み込むばかりでした。

ところが、Nさんが現場に到着すると、思い描いていたものとは違う情景が目に見え込んできました。それは、O氏が元気良く大きな声で指示を出し、社員たちが焼け跡で精力的に走り回っている光景でした。

Nさんは「本当に大変なことでしたね」と、お見舞いの言葉を述べました。O氏は「忙しい中、よく来てくれました」と言い、その後、ある一言を発しました。

それを耳にしたNさんは一瞬、「聞き違えたか?」と、わが耳を疑いました。再度聞き直すと、O氏は、よりはつきりした声で次のように言うのです。

「Nさん、お陰様で、久々にでかい焚き火にあたりました! 燃えたものは、もうしょうがありません。後は

1月のテーマ | 全力を尽くす

一世一代のピンチを救ったプラス思考



建て直すだけです。消防署のほうでは、出火原因は工場内の煙草の不始末といっておりますが、大事な社員ですから、犯人探しはやめました。そのかわり社員たちに、『燃えた物以上の工場を建てるから力を貸せ!』と叱咤しているところです」

O氏の見事なまでの気持ちの切り替えの早さに、Nさんは圧倒され、ある種の感動さえ覚えました。

困難な状況に屈せず、常に前向きに生きようとするO氏のもとには、社員はもろんのこと、取引先や銀行など多くの応援者が現れました。再建は予想よりも短期間で実現し、O氏への周囲からの信用度も以前に増して高くなり、売り上げも伸びていきました。

*

人の一生は、さんさんと陽光が照りつける日ばかりではありません。冷たい寒風の中で身を寄せ合うように生きねばならない時もあります。

思いがけない出来事に遭遇した際、目の前の現象にのみ心を奪われ、誤った対応をして、事態を悪化させてしまうことがあります。その要因は、日頃から身のまわりで起きてくる事柄に対して、恐れや怒り、悲しみ、不満といったマイナス思考が働き過ぎているところにあるのでしよう。

「その人に起きてくる苦難は、解決可能なことだけである」と言われます。この言葉を糧として、ピンチをチャンスに変える力を磨いていきたいものです。